

2026年2月22日
2月第四主日礼拝式



67 きよい手を上げ

きよい手を上げ 賛美にみたされ

感謝のところで 主をたたえよ

主をたたえよ 主をたたえよ

感謝のところで 主をたたえよ

2 み前につどい

1. み前に集い 主のみ名をあがめよう
み前に集い 主のみ名をあがめよう
救い主キリストのみ栄えをほめようとこしえに
2. 心をあわせ 主のみ名をあがめよう
心をあわせ 主のみ名をあがめよう
救い主キリストのみ栄えをほめようとこしえに
3. きよき手をあげ 主のみ名をあがめよう
きよき手をあげ 主のみ名をあがめよう
救い主キリストのみ栄えをほめようとこしえに

新聖歌190番 「 静けき祈りの 」

- 1 静けき祈りの 時はいと楽し
悩みある世(よ)より われを呼びいだし
父の大前(おおまえ)に すべての求めを
携(たずさ)え至(いた)りて つぶさに告げしむ
- 2 静けき祈りの 時はいと楽し
さまよい出(い)でたる わが魂(たま)を救い
危うき道より 伴(ともな)い歸りて
試(こころ)むる者の 罠(わな)を逃(のが)れしむ
- 3 静けき祈りの 時はいと楽し
そびゆるピスガの 山の高嶺(たかね)より
ふるさと眺めて 昇りゆく日まで 慰めを与え 喜びを満たす
アーメン

使徒信条(しとしんじょう)

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
われはそのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりて宿(やど)り、処女(おとめ)マリヤより生まれ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、
三日目に死人のうちよりよみがえり、
天に昇り、全能の父なる神の右に座(ざ)したまえり。
かしこより来たりて生ける者と死にたる者とをさばきたまわん。
われは聖霊を信ず。
聖なる公同の教会、聖徒の交わり、
罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、
永遠(とこしえ)のいのちを信ず。

アーメン

新聖歌396番 「慕いまつる主の」

- 1 慕(した)いまつる主の 御招(みまね)きある今
十字架 担(にな)い行かん 愛する主の後(あと)を
* 何処(いづく)までも行かん 何処(いづく)までも行かん
何処(いづく)までも行かん 愛する主の後(あと)を
- 2 血潮(ちしお) 混(ま)じる汗(あせ) 流し 祈る主の
ゲッセマネにも行かん 愛する主の後(あと)を * (くりかえし)
- 3 打たれ ののしられ 辱(はずかし)め 受くる
ひとまえにも行かん 愛する主の後(あと)を * (くりかえし)
- 4 君の御恵(みめぐ)みに 浸(ひた)りし わが身は
栄え 望み 行かん 愛する主の後(あと)を * (くりかえし)

アーメン

主の祈り

天にまします われらの父よ。

ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。

御国(みくに)を来たらせたまえ。

御心(みこころ)の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらのにちようの糧(かて)を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者を、われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ。

われらをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国(くに)と力(ちから)と栄え(さかえ)とは、

限りなく 汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

新聖歌63番 父 御子 御霊の

ちち みこ みたまの

おお 御神(みかみ)に

ときわに 絶(た)えせず

御栄(みさか)え あれ

御栄(みさか)え あれ

アーメン